第104回全国高等学校野球選手権島根大会を終えて

飯南高等学校　野球部監督　来田　良博

平成6年に甲子園出場という飯南町の夢を託されて軟式から硬式野球部になり、県内では最も歴史の浅い本校野球部に、あと一つで甲子園という舞台が用意された。

春の大会は石見智翠館に破れベスト8、5月の段階では練習試合も勝ったり負けたりという内容だった。しかし6月以降は投手力が安定し、練習試合は負けなしで大会に臨むことになった。

今年のチームの強さは投手力・攻撃力・守備力、三拍子が揃ったことである。投手は三上と岩本の2枚で安定しており、攻撃は特に1番～5番の連打による得点パターンが相手の脅威となっていた。守備力はショートで主将の石田とセンターの藤原を中心に地道な練習で安定感を増した。

初戦益田高校戦、初回得意の連打で先制するが同点に追いつかれ延長戦に入る。ここで今年のチームの慌てない雰囲気に気がついた。相手投手の交代に乗じて得意の連打で得点し試合を決めた。私は試合後のミーティングで言った。「初戦苦しい試合で勝つと、それから勝ち進むと言うジンクスがある」（本来ジンクスとは悪い意味で使われる事が多いが・・）

2回戦松江北・3回戦松江農林は予言通り勝ち上がり、準々決勝は石見智翠館を破った松江商業と対戦する。松江商業は昨夏対戦し、全校応援の前で0－1と敗れた相手である。「リベンジのチャンスが来た」2、3年生はそう思ったに違いない。卒業生からも「必ず勝ってください」とメールが来る。この時チームには「負けたらどうしよう」「勝てなかったら」「失敗したら」という思考は全く無くなっていた。どんな強い相手にも結果を考えず出来ることを全力でやるだけ。6月、春の選抜に出場した広島商業との練習試合で教わったことだ。「やれば出来る！」

準々決勝、松江商業の投手はやはり簡単に打てない。三上と相手投手の投げ合いで1－1の延長戦になった。2死3塁からヒットを打たれ、1点を追って最後の攻撃だがベンチは落ち着いていた。自慢の連打に相手のミスもあって逆転サヨナラ勝ち。夏の大会、飯南高校野球部史上初のベスト4だ。

準決勝開星戦、初めてのベスト4という感じはなく選手は大舞台を楽しんでいた。勝つたびに増えていく取材や声援に少し慣れてきたかな。このSNSの時代、様々な情報が生徒にも入るはずだ。勝てば良いことを言われ、負ければ悪いことも言われる。他人の情報に惑わされることなく、ベンチにいるチームメートと我々スタッフの言葉だけを信じて試合をしようと話した。

試合は8回を終わって1－1、チャンスは開星に多いが点が入っていない。飯南のペースだ。9回表に1点を取られるがベンチに動揺はない。いつも通りにやろう。1死1塁、勝負のヒットエンドランが決まった。1死1・3塁、同点スクイズが決まったかに見えたがファールの判定。強攻策に切り替えたが内野ゴロ、本塁憤死、2死1・2塁。焦りがあると、ここで簡単に打って出てゲームセット、となるケースが多い場面だが、じっくり見極めて四球を勝ち取り2死満塁。「慌てた方が負ける」次の内野ゴロを相手がエラー、同点。このときはさすがにベンチもお祭り騒ぎ。落ち着く間もなくサヨナラヒット、我々も一緒に一瞬だけベンチでお祭り騒ぎをした。

教員生活最後の年に母校と決勝戦を戦う。これ以上楽しみな試合はないのだが、体調不良により選手変更を余儀なくされ、控え選手4人を起用しての総力戦となった。結果は4－9敗戦。控えだった3年生は今大会初めての出場だが、全力のプレーを見せてくれた。1・2年生には決勝まで戦った経験を今後生かしてもらいたい。一生の思い出となるはずだ・・・夏が終わった。

よく「メンタルが強い」という言い方をするが、「どんな場面になっても慌てないこと」こそメンタルの強さであり、今回飯南高校が1戦1戦強くなった要因であろう。

初戦全校応援、落ち着いているように見えたが勝利した試合後ベンチで涙する選手が何人もいた。初戦突破にはそれだけの重さがある。勝って泣けるほどの緊張があったんだろう。それを乗り越えたからミラクルな試合が生まれた。

最後に

大会を通じてご支援ご声援をいただきました皆様、本当にありがとうございました。

飯南高校野球部の新しい歴史を作ってくれた部員たちを誇りに思います。

しかし勝負は既に過去のこと。新しい勝負の準備をしなくてはなりません。新チームは選手11名とマネージャー1名でスタートします。夏準優勝だからといって、秋に勝てる確約は何もありません。

硬式野球部創部の念願である甲子園出場を目指して一層頑張りますので、今後とも野球部をよろしくお願いいたします。

飯南高校学校だより

月根尾

令和4年 8月

249号

野球部　7/13-28

第１０４回全国高等学校野球選手権島根大会

【１　回　戦】飯南　　５－３　益田
【２　回　戦】飯南　　７－３　松江北
【３　回　戦】飯南　　４－１　松江農林
【準々決勝】飯南　３×―２　松江商業
【準　決　勝】飯南　３×―２　開星
【決　　勝】飯南　　４―９　浜田

夏の大会を終えてやり切ったという思いと悔しさがあります。高校野球人生を振り返ってみると、入学した当初はコロナが流行し始め先輩の甲子園という目標が無くなり悔しい思いをしたのを覚えています。しかし、先輩方は決して下を向かず前を向いて一生懸命練習しておられる姿を見て私たちの高校野球が始まりました。

そして二年半、仲間たちと苦しい時も楽しい時も共に過ごしてきました。僕が三年生になり、キャプテンとしてチームをまとめる立場になりました。正直、僕の代は一人ひとりの個性が強く、まとめるのが難しかったです。しかしみんなついてきてくれました。本当にありがとう。去年新チームが始まり、過去で一番弱い世代だと思われていました。僕も頼りにしていた三年生が引退されて不安で仕方なかったです。しかし、最後の集大成である今大会で準優勝という過去にない成績をおさめることができ、とても誇りに思います。

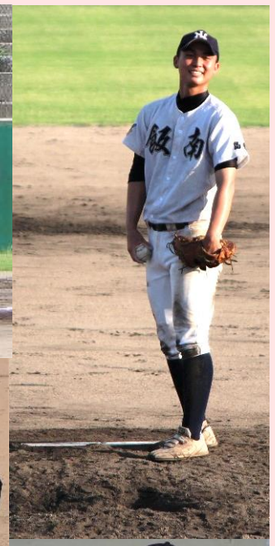
一回戦、準決勝、決勝と全校応援で、自分たち野球部が本気で勝ちに行く姿を見てもらい、感謝しています。飯南町からもたくさんの町民の方に応援にお越しいただき、ありがとうございました。試合後たくさんの方から「おめでとう」「ありがとう」と言われて嬉しかったです。この準優勝は飯南町民、飯南高校生、先生方、保護者の方全員で取ることができたと思います。

来田先生には二年半指導していただいて、合宿や試合、学校生活とたくさんの時間を過ごしました。野球だけでなく、社会に出るのに必要な指導もしていただきました。教員最後の年で、甲子園に一緒に行きたかったですが、叶えることができず悔しいです。しかし、飯南高校に入って来田先生と出会い、教えていただいたたくさんのこと、準優勝という成績が取れたという誇りは忘れません。

最後になりますが、この二年半苦しいことも多かったですが、この仲間と甲子園という目標に向けて走り抜けたことは一生の財産です。これからも飯南高校野球部の応援をよろしくお願いします。

野球部主将　石田 壮太

～快進撃!!　初の準優勝!!～



生命地域ラボ　第11回高校生の神楽甲子園 ひろしま安芸高田　7/23

神楽愛好会「神楽伝承奨励賞」受賞！

「私たちはさまざまな方に支えていただきました。練習できたことは、地域の方々が協力してくださったおかげであり、また指導者さんのおかげでもあります。神楽甲子園という大きな舞台に立てたこと、心から嬉しく思います。最高の舞台で、最高の仲間と、最高の神楽ができたこと、今までにない感情が今ここにあります。目標には届きませんでした。涙を流しました。今でも悔しいです。しかし、お客さんからものすごくほめられました。この仲間と神楽ができて良かったです。先生方、本当にありがとうございました！」

これは、今回出場したメンバーの１人が「生命地域ラボ神楽愛好会日誌」に書いたものです。広島県安芸高田市の神楽門前湯治村「神楽ドーム」において、第１１回高校生の神楽甲子園が開催され、本校は３回目の出場を果たしました。

生徒たちは、緊張の中にも平常心を保ち、練習の成果を十分に発揮して演目「羅生門（らしょうもん）」を、迫力満点、凄みさえ感じられるほど立派にやり遂げ、会場から大きな拍手をいただきました。上演後の生徒たちは、爽やかで充実感いっぱいの笑顔にあふれていました。

８校中１校だけが「日藝選奨」に選ばれるのですが、もしかしたら･･･の願いはかなわず、残念ながら受賞はできませんでした。日本大学藝術学部演劇学科の小林直弥教授による講評では、「“日藝選奨”を１校だけ選ぶことは難しかった。飯南高校については、安定した奏楽、特に鹿田麻衣さんの笛の技術力が高かった。」「演舞も、１つ１つのポーズが決まっており、身体を大きく動かした後の止まる動作もよく考えられていた。きちんと稽古を積み重ねてきたことがよくわかった。」等、片地ことのさん、藤原優雅さん、鹿田千陽さんについては個人名をあげての高い評価をいただきました。さらに、安芸高田市の石丸市長からも、「感動して涙が出た。」と声をかけていただきました。

飯南高校に入学して神楽という伝統芸能に初めて触れる生徒も増えていくと思います。地域の皆様とともに保存伝承、後継者育成に関わっていくことも高校の魅力化の１つです。９月の鵬雲祭では、教職員・全校生徒の前で「羅生門」を披露する予定です。学校全体に神楽の魅力を広めていくチャンスと捉え、張り切って上演したいと思います。迫真の舞をご体感ください。　＊詳しくはHPをごらんください。

報道部

全国出場

第６９回ＮＨＫ杯全国高校放送コンテスト　7/9-11

【アナウンス部門】準々決勝出場
（オンラインで開催）
小野田　花菜　『町の魅力を再発見』

私は小さい頃から「いい声だね～」と言っていただくことが多く、高校では自分の声をもっと良くしたいと思い、報道部に入部しました。飯南高校情報箱に出演した際には、地域の方々に「出とったね～」「見たよ～」とたくさん声をかけていただきました。その言葉一つ一つが、部活動を頑張ろうと思えるモチベーションとなっていました。

また３年間の部活動で、報道をする際には、常に聞いてくれる「相手」のことを考え、分かりやすく、笑顔で話すことを意識してきました。このことは、人前で発表をする際や、人とのコミュニケーションでも大切になってくると思います。これからの私の人生で活かしていきたいと思います。

Ｎコンの全国大会は私にとって最後の大会となりました。上位までは届きませんでしたが、これまで練習してきたことをすべて出し切れたので悔いはありません。これまで応援をしてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

第４６回全国高等学校総合文化祭　とうきょう総文２０２２　8/3-4

【朗読部門】予選出場
板垣　颯哉　『桜樹』

東京会場で朗読予定でしたが、音声での審査になってしまい、とても悔しい気持ちではありますが、ここまで大会に向けて努力してきたことは、とてもいい経験になりました。結果は残念ながら、予選敗退となりました。今まで応援してくださった地域の方々や、顧問の先生、保護者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございました。

また、一緒に部活動を頑張ってきた部員のみんながいてくれたおかげで自分もここまで成長できたと感じています。三年間、とても楽しい部活動でした。

吹奏楽部

第６３回全日本吹奏楽コンクール島根県大会　8/6

【高等学校小編成の部】『鬼姫～ある美しき幻影～』

私たちは、出雲市民会館で行われた今大会に出場しました。金賞を受賞することは出来ましたが、代表として中国大会に出場することはできませんでした。

コロナの影響による練習制限など、自分たちではどうにも出来ない問題がたくさん立ちはだかる中で、毎日必死に頑張ってきました。だからこそ目標としていた中国大会出場を果たすことが出来なかったのはとても悔しいですが、１３人という少人数で金賞を受賞することが出来たのも、私たちの努力の蓄積があってこそだと思っています。そして何よりも、たくさんの応援やご協力をいただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

吹奏楽部部長　成田埜乃花

９月の主な行事予定

１日（木）鵬雲祭文化祭（～２日）
３日（土）出校日　鵬雲祭体育祭
５日（月）振替休業日（９／３）
１３日（火）２年生中山間地域体験学習（～１４日）
２１日（水）月曜日の時間割（１～４限）
２２日（木）試験発表
２７日（火）生徒会役員選挙
２９日（木）中間試験（～１０月４日）

＊行事予定は今後変更になる可能性があります。